

第4学年赤組 図画工作科学学習指導案

指導者 香川大学教育学部附属高松小学校 山本 明伸

主張点

達成感につながる表現活動の実現に向けて、指導と評価の在り方を以下のように工夫する。

- I 個々のイメージを豊かな表現へとつなぐための状況づくりを工夫する。
- II 子どもの自己評価を、子ども同士の豊かなかかわり合いや教師の形成的評価に生かす。

1 題材 キラキラ！ハートキャッチフラワー

2 題材について

(1) 題材のねらい

本題材は、学習指導要領の第3学年及び第4学年内容A表現(2)イ「表したいことや用途を考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと」、ウ「表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと」、B鑑賞(1)イ「感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること」に基づいて設定している。

本題材は、子どもにとって身近で、様々な表現の可能性がある材料としてアルミはくに着目する。アルミはくは、金属的な色や輝きや独特な質感があるとともに、丸める、ねじる、さくなどの加工が比較的容易にできるため、子どもが主体的に材料にかかわり、イメージを具体化して、達成感を味わうことができる効果的な材料になると考える。また、そのようなアルミはくの特徴を生かした活動の設定を工夫することで、学習指導要領の中で指導の共通事項として明示されている「形や色の感じをとらえること」や「形や色の感じを基に、自分のイメージをもつこと」に迫る題材化が図れるものとする。

また、本実践では、完成作品の展示方法にもこだわりたい。教室ではなく屋外に展示することで、光の反射によってアルミはくの金属的な色や輝きや特有の質感がより強調され、非日常的な空間を演出できると考える。イメージを具体化できたことで得られる個々の達成感だけでなく、個々が形にこだわりをもってつくった作品を展示し1つの空間をつくり上げるという意味において、集団で得られる達成感も味わえるような題材化を目指す。

主張に迫るために

I 個々のイメージ化を促し、豊かな表現へと向かうための状況づくりを工夫する。

① 材料遊びの中で見出した子どもの気づきを題材化に生かす

題材の導入において、材料のアルミはくを子どもに提示した時に「紙や木材などの他のものにはないアルミはくならではの特徴ってなんだろう？」と問いかけた。まだ、アルミはくを手にする前の子どもから返ってきたのは、「キラキラしている」「光って見える」などのアルミはく特有の金属的な色や質感に関することや「簡単に丸められる」などの加工の仕方についての言葉であった。日常生活の経験としてアルミはくの特徴を感じている子どもに、改めて表現活動の材料としてアルミはくと出合わせるために、「アルミはくならではの特徴を生かしてどんなことができるかな。」という発問のもと、材料遊びの時間を設定した。積極的に材料にかかわる中で、「一度丸めてから開くと、たくさんのしわができて、丸める前よりももっとキラキラする感じがするよ。」「丸めたりさいたりするほかにも、指先でつまみ出したりねじったものをさらにぐるぐると曲げたりするとおもしろい形がつくれたよ。」など、豊かな表現に向かう気づきがたくさん見られ、全体で共有することができた。

【材料遊びの中でできた形】

本題材では、このような気づきを生かして豊かな表現を展開させることが期待できる題材として、想像した花を立体で表す活動を設定した。

② 形こだわった活動を促すためのイメージ化を図る

子どもがこだわりをもって活動を続けるためには、個々が表したいイメージをもっておくことが必要だと考える。本題材では、テーマが「花」であることを伝えた後、子どもとの対話を進める中で、全体で共有したアルミはくの特徴（金属的な色や輝きのおもしろさ）を生かすために、完成作品を屋外に展示することになった。屋外展示を行うことによって、同じ学級の友だちだけでなく、異学年の友だちにも自分がつくった作品を見てもらえる状況が生まれ、イメージ化を図る過程において、「見る人を引きつける」という視点が加わった。また、イメージ化を図るためのツールとして、本実践では、ウェビング図の手法を取り入れた。「自分の作品を見た人に『きれいだな』、『かっこいいな』、『迫力があるね』、『ふしぎだな』と思ってもらいたい」という思いから始まり、そのために「グニャグニャと曲がったくきにしよう」「葉の形をとげとげにしよう」など、イメージを広げて言語化し、さらに、それをアイデアスケッチによって具体化していった。ただし、発達段階から考えた時、イメージに向けてつくり進めていく姿だけでなく、つくりながら考え表現を高めていくという子どもの姿も想定されるため、アイデアスケッチに描いたものについては、活動の見通しとして自分の表したい方向性を示すものとして捉え、変更しても構わないことを子どもには伝えている。このような過程を経て、ただ身近にある花を再現してつくるのではなく、「人の心を引きつけるような花」という意味で、「ハートキャッチフラワーをつくろう」という課題を共有した。

③ 材料の特徴を生かすための条件を設定する

本題材では、アルミはくに着目した主な理由は、次の3点である。

ア 金属的な色や質感のおもしろさがあること

イ 固めたりねじったり重ねたりすることで可塑性が生じ、自由に形づくることができること

ウ 固めたりねじったり重ねたりなどの加工が容易であること

題材の導入で行った材料遊びを通して、このようなアルミはくの特徴を学級全体で共有することができた。本題材では、これらのアルミはくの特徴を生かした豊かな表現が展開されることをねらい、他の材料を組み合わせたり他の色を着色したりしないという条件を設定する。このような条件を設定することによって、表したいイメージに合う形をつくりだすために試行錯誤する子どもの姿が促され、「つくる－見る－考える－つくり直す」の過程をくり返す中で、自己のイメージを具体化できたことが子どもの達成感につながると考える。

④ 個々の制作の時間とかかわり合いの場の位置づけを工夫する。

研究の視点として、子どもが達成感を味わうための手立てとして、子どもが自己の表現の変容（高まり）を自覚できるようにするための支援が焦点化されている。子どもの表現の変容（高まり）の過程には、次の2つの側面があると考えられる。

ア 試行錯誤の過程において個人内で生じる表現の変容

イ 他者との豊かなかかわり合いで得た気づきがもとになって生み出される変容

上のア、イに挙げた個と集団の両面から子どもの表現の変容（高まり）を促す支援の在り方を考えていくにあたり、本提案では、アの個の活動を軸にして学習活動の設定を行うことにする。子どもが達成感を味わうためのかかわり合いをより豊かなものにするためには、その土台として、個々の表現の変容（高まり）が保障されていることが大切であると考え、1単位時間の中で子どもが集中して表現に取り組むことができるようにするための時間を最大限に確保する。

また、イについては、かかわり合いの対象やタイミングが多様に考えられる中で、本題材では、制作時の自然発生的なかかわり合いの他に、教師の意図的な設定として、自他の作品を対象として活動の終末にかかわり合う場を主に設定する。自他の表現が豊かに変容した状況でかかわり合うことで、互いの表現のおもしろさに気づくとともに、次時に向けて新たな問題把握が図られることを期待する。

Ⅱ 子どもの自己評価を、子ども同士の豊かなかかわり合いや教師の形成的評価に生かす。

① 豊かなかかわり合いを促すために、子ども主体のグループ設定を行う。

学級の子どもは、これまでの図工の活動の中で、つくりながらアイデアを話し合ったり困ったときには友だちにアドバイスを求めたりするなど、自然にかかわり合いながら表現を展開してきた。そこで、本提案においても、子どもが自然にかかわり合うことで豊かな表現を展開させていく姿を期待し、子ども同士の調整によってグループを設定する方法を取り入れる。その際、子ども主体で設定したグループが単なる日常の友だち関係の集まりにならないようにするために、グループづくりの視点が必要となってくる。活動終末に行うかかわり合いを通して次時に向けての問題把握を促し、その問題を解決させることをグループづくりの視点として価値づけることで、豊かな表現に向けてアドバイスし合えるグループづくりを子ども主体で行いたい。子ども主体のグループ設定を行うことで、必要感のあるかかわり合いの姿が生み出され、表現の高まりや達成感を味わうことにつながると考える。

② 子どもの自己評価を教師が行う形成的評価に生かす

本提案で期待する達成感を、作品が完成したことに対する満足感と捉えるのではなく、表現の変容を自覚し、高まりを感じることで得られる喜びと捉える。そのような達成感を、まずは子ども自身が味わえるようにするために、自己の表現の変容を綴ったりこだわってつくった形を写真で記録したりする形式で自己評価を行う。その自己評価を掲示しておき、制作時の子どもの観察と関連させることで、子どもの表現の変容を効果的に見て取り、参考作品や資料の提示やかかわり合いの場の意図的な設定などの支援を行うことができると思う。本提案では、子どもが達成感を味わう表現活動になるように、子どもの自己評価を生かして行う教師の形成的評価の在り方を探っていきたい。

3 題材の目標

「キラキラ！ハートキャッチフラワー」について想像をふくらませ、アルミはくの特徴を生かしてつくることができる。

4 学習指導計画（全5時間）

第一次 材料遊びを行う。・・・・・・・・・・ 1時間

第二次 アイデアスケッチを描く。・・・・・・・・・・ 1時間

第三次 アルミはくの特徴を生かしてつくる。・・・・・・・・ 2時間（本時2／2時）

第四次 作品を展示し、互いの面白さを味わう。・・・ 1時間

5 評価規準

評価規準を設定するにあたり、「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校図画工作】」（国立教育政策研究所著）では、次のように示されている。

【「A表現（2）絵や立体、工作」の評価規準に盛り込むべき事項】

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能
表したいことを表すことに関心を持ち、自分の思いで取り組もうとしている。	感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けたり、形や色、用途などを考えたりしている。	自分の表したいことに合わせて、材料や用具を使うとともに、いろいろな方法を試みるなど工夫して表している。

【「B鑑賞（1）鑑賞」の評価規準に盛り込むべき事項】

造形への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
自分たちの作品や身近にある美術作品などのよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。	感じたことを話したり、話し合ったりしながら、形や色、表し方や材料による感じの違いなどを捉え、よさや面白さを感じ取っている。

これを受けて、本題材の評価規準を次のように設定する。

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
アルミはくの特徴を生かして、自分が想像した花をつくる活動を楽しもうとしている。	自分が想像した花のイメージを効果的に表すために、 アルミはく の加工方法を選んだり組み合わせたりするなど、表し方の工夫を考えている。	自分が想像した花の形にこだわりをもち、指先の感覚を働かせながら、 アルミはく の特徴を生かして工夫して表している。	制作過程の表現や完成作品の工夫を互いに話し合うことで、アルミはくを用いた作品の 特有の面白さを感じ取っている。

6 本時の学習指導

- (1) 目標 アルミはくの特徴を生かし、想像した花のイメージが表れるように表現方法を選んだり組み合わせたりしてつくることができる。

(2) 学習指導過程

学習活動	子どもの意識の流れ	教師の指導と評価
<p>【題材全体を通しての課題】</p> <p>アルミはくは、どくどく色や輝きがあり、丸めたり、ねじったり、曲げたり、ちぎったりすることで様々な形を自由につくることができるおもしろい材料でしたね。アルミはくの特ちょうを生かして、見る人の心をつかむ「キラキラ！ハートキャッチフラワー」をつくりましょう。そして、アルミはくのよさが引き立つような場所に展示して、附属高松小学校に「キラキラ植物園」をつくりましょう。</p>		<p>○ 形にこだわりをもった表現活動の展開を促すために、前時の終末で行う自己評価の中で、本時の活動でこだわりたいことをめあてとして書き、問題把握を図っておく。</p> <p>○ 本時において自然なかかわり合いが豊かに行われるように、把握した問題の解決のためのグループを子ども主体で設定しておく。</p>
1 本時の課題を確認する。	<p>アルミはくの特ちょうを生かし、形にこだわって、「キラキラ！ハートキャッチフラワー」を完成させよう。</p>	<p>○ 制作過程における自然なかかわり合いを通して、子どもが豊かに表現を展開できるようにするために、互いのめあてをグループ内で確認する場を設定する。</p>
2 アルミはくの特徴を生かしてつくる	<p>見る人に「おもしろいな」「ふしぎだな」と思ってもらえるように、くきの形を工夫したつくったよ。今日も、葉や花、実の形を工夫して、とっておきの「キラキラ！ハートキャッチフラワー」を完成させよう。</p> <div> <div>アルミはくをさいて、ひらひらの花びらにしよう。つまんでとげとげのような花びらにしてもおもしろそうだな。</div> <div>アルミはくを丸める以外にも、ねじったものをさらにぐるぐると曲げると、うずまき状のおもしろい形の実ができそうだな。</div> <div>アルミはく1枚でなく、2, 3枚重ねると、不思議な葉になりそうだ。ねじって、ぐるぐるの葉にしてもおもしろそうだよ。</div> </div>	<p>○ 活動への意欲化を図るために、材料遊びで共有したアルミはくの特徴を生かして、自分のイメージを効果的に表している子どもの作品を用いてモデリングを行う。</p> <p>○ 子どもが表現に集中して取り組むことができるようにするために教師が意図的に設定する中間交流は行わず、個々の制作の時間をできる限り多く確保する。また、友だちにアドバイスをもらいたいときは、自由に交流してもよいことを助言する。</p>
3 友だちの作品を鑑賞する。	<p>〇〇さんの花の花びらは、アルミはくをさいた後に端をクルンと丸めているところを工夫しているね。見る人に「かわいいな」と思ってもらえそうだね。</p> <p>□□さんがつくった植物は、ぐねぐね曲がったくきから、細長くとんがった葉が生えていて、ジャングルの奥深くにいそうなふしぎな感じがするよ。</p>	<p>○ 子どもが主体的に表現を展開することができるように、個別指導の中で、イメージを効果的に表すために表現方法を工夫している子どもを賞賛したり、表現が滞っている子どもにはイメージに合う表現方法を提案したりする。そのために、前時の終末で行った自己評価をグループごとに掲示しておき子どもの表現の見取りに生かす。</p> <p>〈評〉様々な表現方法の中から自分のイメージに合う方法を用いて、想像した花を形づくっていくことができたか。</p>
4 次時への見通しをもつ。	<p>アルミはくの特ちょうを生かして、イメージしたおもしろい形の「キラキラ！ハートキャッチフラワー」ができたよ。これなら見る人の心をグッと引きつけられそうだよ。作品のよさが一番表れる場所にかざって、はやくたくさんの人に見てもらいたいな。</p>	<p>○ 本時のまとめ、また制作のまとめとしての達成感につながるよう、完成作品や特にこだわってつくった部分をデジカメで記録する場を設定する。</p>